

せいきょう連ニュース

CO-OP 岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

県生協連・会員生協 役員研修交流会

2025年、国際協同組合年、
被爆・終戦80年に向け意義と課題を学習

平田会長

1月7日（火）オルガホールにて、県生協連・会員生協役員研修交流会が開催され、68名（会場参加46名、オンライン22名）の役職員が参加しました。

県生協連平田昌三会長より、今年は様々な「区切り」の年になるが、大切なことはしっかりと継承していこうと挨拶があり、岡山県県民生活部くらし安全安心課の宮原雅史課長からはすべての県民が笑って過ごせるような岡山県づくりに一緒に取り組みましょう、とご挨拶をいただきました。



宮原課長

続いて、新井ちとせさん（日本生協連副会長、ICAアジア太平洋理事・女性委員会委員長）、加百智津子さん（岡山被爆2世・3世の会世話人代表）を講師にお招きし、2部構成で学習講演が行われました。2025年は国連が定めた「国際協同組合年」であり、被爆・終戦80年の「区切り」を迎え、協同組合の意義や被爆体験の継承、核兵器廃絶への動きが問われる年であり、その取り組み強化へのキックオフとしての位置づけで取り組まれました。



新井さん

第1部は「2025国際協同組合年にあたって～日本生協連の国際活動に関わって～」と題して新井さんより、国連が今年を「国際協同組合年」に決めた背景として、協同組合が行う取り組みの評価とSDGs達成に向けた重要セクターとしての期待があることが述べられ、これからの世界と日本での取り組み予定などを紹介しました。また、新井さんが関わってきた国際協同組合同盟（ICA）のアジア太平洋地域の事務所でのエピソードなど交え、世界の協同組合の動きや女性活躍へ向けた取り組みなどを紹介し協同組合の可能性をアピールしました。



加百さん

第2部は「被爆80年。核兵器のない平和な世界を求めて～「母さんのヒロシマ」を語り継ぐ～」と題して加百さんより、今日の平和の危機とそこでの日本被団協のノーベル平和賞受賞の反響を今後の平和活動へつなげたいこと、おかやまコープでの平和の活動の歩みを紹介し、組合員の社会を見る窓口としての生協への期待を述べました。そして、原爆の恐ろしさと加百さんの母親の被爆、その後「何十年たっても“被爆者”を追いかけてくる」苦難の経験を語り、ご自身の被爆2世としての活動と想い、一人一人が「知る」、「知らせる」、「考える」、「行動する」ことを被爆80年の今年、より広げていこうと提起しました。

副知事との懇談、 県行政との定期懇談会を開催

岡山県生協連では、生協と行政の関係づくり、相互理解の促進に向けて、2024年10月21日副知事との懇談、生協を管轄する県行政部局との懇談会が岡山県庁にて開催されました。上坊副知事、県民生活部くらし安全安心課の職員とも前年に対応してきたこともあり、より広い分野での情報交換ができました。

●岡山県副知事との懇談

岡山県からは、上坊勝則副知事、県民生活部くらし安全安心課から宮原課長、中本総括参事、上杉主事に出席いただき、県生協連から平田会長、田中副会長、岩松副会長、大同常務、和泉理事、岡本監事が出席し懇談しました。



上坊副知事(中央)と出席役員

生協からは県との取り組みへの謝意と2025年の「国際協同組合同年」の意義、生協が協力してきた日本被団協のノーベル平和賞受賞への祝意を伝えるとともに、直近の生協の社会的取り組みの特徴的な動きを報告しました。上坊副知事からは、能登半島地震での全国生協の迅速な支援活動への評価から始まり、夏の“米騒動”や物価高、5類移行後の医療現場でのコロナ対応などで、生協の姿勢や要望、県の取り組みなど幅広く意見交換をしました。多くの部門で生協と県行政が連携していることも改めて確認し、今後ともさまざまな連携を追求するとともに、情報交換をしっかりとっていくこととしました。

上坊副知事からは、能登半島地震での全国生協の迅速な支援活動への評価から始まり、夏の“米騒動”や物価高、5類移行後の医療現場でのコロナ対応などで、生協の姿勢や要望、県の取り組みなど幅広く意見交換をしました。多くの部門で生協と県行政が連携していることも改めて確認し、今後ともさまざまな連携を追求するとともに、情報交換をしっかりとっていくこととしました。

●くらし安全安心課との定期懇談会

県民生活部くらし安全安心課宮原課長、中本総括参事、上杉主事に出席いただき、県生協連からは、副知事懇談に参加した6名と岡山県消費生活懇談会委員1名が出席し、懇談を行いました。



くらし安全安心課からは「第5次岡山県消費生活基本計画」策定へ向けた県民意識調査について説明があり、エシカル消費、カスハラ（カスタマーハラスメント）、デコ活（脱炭素につながる取り組み）といった新たな意識や行動に注目したいということでの意見交換を行いました。その他、学校での消費者教育、食品ロスへの対応など消費生活をめぐるさまざまな課題、また、生協を監督する部局でもあることから、生協の取り組みや県行政の他部局との連携の実態なども知ってもらおうとともに、今後も県生協連との情報共有を図っていくことなどを確認しました。今後もこのような場を定期的に持ち、相互理解を進めていくこととしました。

くらし安全安心課からは「第5次岡山県消費生活基本計画」策定へ向けた県民意識調査について説明があり、エシカル消費、カスハラ（カスタマーハラスメント）、デコ活（脱炭素につながる取り組み）といった新たな意識や行動に注目したいということでの意見交換を行いました。その他、学校での消費者教育、食品ロスへの対応など消費生活をめぐるさまざまな課題、また、生協を監督する部局でもあることから、生協の取り組みや県行政の他部局との連携の実態なども知ってもらおうとともに、今後も県生協連との情報共有を図っていくことなどを確認しました。今後もこのような場を定期的に持ち、相互理解を進めていくこととしました。

2024年度組合員活動交流集会のご案内

《テーマ》地球“沸騰化”に私たちのできること

日時 2月18日(火) 10時～12時

会場 オルガホール、オンライン視聴
(岡山市北区奉還町)

講演

「気候の危機にどう向き合うか」

【講師】 東京大学未来ビジョン研究センター
えもり せい た
江守 正多 教授



生協の取り組み報告

グリーンコープ生協おかやま
「2027カーボンニュートラルに向けて」
倉敷医療生協
「2024年度の環境を守る取り組み」

応募締め切り

2月7日(金)

お申し込みは
こちら→



詳しくは、各生活協同組合、または岡山県生協連へ。

県内友誼団体とともに

岡山県消費者団体連絡協議会

～第37回岡山県消費者大会開催～

10月22日（火）、第37回岡山県消費者大会がオルガホール（岡山市北区）、会員団体サテライト会場、Zoom配信で開催され、17団体、計110人余りが参加しました。「どうする？日本の、私たちの、『食』と『農』」をテーマに記念講演と構成団体の活動報告を行いました。



記念講演では、日本農業新聞論説委員長の鈴木祐子さんを招き、温暖化や自然災害、担い手不足や輸入偏重などの農業生産者をめぐる危機、2024年5月に改正された、農業の憲法ともいわれる「食料・農業・農村基本法」

のポイントと課題を提起しました。一方で、子どもたちは身近に農業を見る機会が減り、「食」と「農」の距離が離れる危機感を訴えました。

そうした課題への処方箋として、消費者は作る側の事情を理解し、国産品を食べることで農家を支えるという関係を追求していくなど生産者と消費者が「対等互惠」の関係づくりをしていくことが大切と語り、生協の役割にも期待が述べられました。

団体活動報告では、倉敷医療生協、三井造船生協、岡山県労働者福祉協議会からそれぞれ活動報告がなされました。



岡山県協同組合連絡協議会

～おかやまコープ「コープフェスタ2024」に出展～

9月28日（土）にコンベックス岡山で開催されたおかやまコープ「コープフェスタ2024」に協同組合連絡協議会としてのコーナーを作り、多くの子どもたちが楽しみながら学習しました。



岡山県生協連
「SDGs輪投げ」でSDGs
を楽しみながら説明。



岡山県漁連

瀬戸内の生の魚の展示と生きた魚に触れる体験に子どもたちはワクワク、ドキドキ。



岡山県森林組合連
説明など木の要素満載のブース



J A 岡山中央会
クイズやぬり絵で子どもたちに大人気。



おかやまコープ

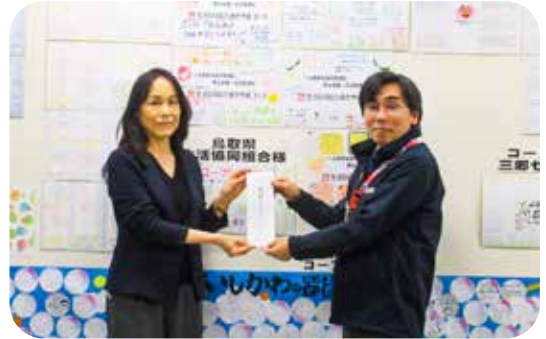
能登半島地震被災地を支援

おかやまコープは、日本生活協同組合連合会からの呼びかけに応え、被災地の早期の復旧と被災された方の生活再建に向け、9月26日～12月1日の期間「令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害募金」に取り組み、宅配・店舗で15,809,551円の募金が寄せられました。

また、コープいしかわで宅配を利用している組合員家庭に励ましの気持ちを込めてメッセージとプレゼントを贈る取り組み「能登の組合員家庭にメッセージ&プレゼントを贈ろう！」に参加。「沖縄県産もずくスープ」と「瀬戸内レモンのレモネード」100セットを贈呈しました。



メッセージを添えたプレゼントをお届け



おかやまコープ市川理事(左)がコープいしかわを訪問し大谷理事長にプレゼントの目録を贈呈

県内147ヵ所の「子ども食堂」などに食品を贈呈



総社市社会福祉協議会での贈呈式(12月3日)

おかやまコープは、物価高騰が続く厳しい経済状況の中で、「子ども食堂」や居場所づくりなどに取り組むグループを応援するため、社会福祉協議会やNPO法人を通じて、県産こしひかりやキャノーラ油などのコープ商品を贈呈しました。

3年目を迎えるこの取り組みは、コロナ禍後の活動再開と新規の活動開始があり、お届け先は147ヵ所と昨年から28ヵ所増加。運営を支えるスタッフへ組合員からの応援メッセージも一緒に届けました。贈呈した食品は、組合員が「おかやま育ち」商品1点購入につき0.2円が積み立てられる「コープ地域づくり協働基金」を活用しています。

津山医療生協

「ごぼう先生」と楽しく健康体操を行いました

11月2日津山総合福祉会館にて、ごぼう先生*1こと築瀬寛(やなせひろし)さんを迎えて健康集会を開催し要員含め85名が参加しました。わかりやすいお話と座ったままできる体操の実技指導であっという間に時間が過ぎていきました。「間違ってもいい、楽しむことが大事」「いくつになってもワクワクドキドキするように積極的に外出しよう」などユーモアを交えたお話もあり、たいへん盛り上がりました。当日の午前中は津山医療生協のデイサービスでもごぼう先生に利用者さんとレクリエーションをしていただき、利用者さんにも午後の参加者にも笑顔溢れる1日となりました。

(※1) ごぼう先生

『介護のご、予防のぼう』大人のための体操のお兄さん。シニアを中心に座ったままできる健康体操を行っています。



倉敷医療生協

「海ごみ回収体験」

倉敷医療生協環境委員会は水島地域環境再生財団・浅口市寄島町の漁業者大室欣久さんの協力で、12月6日に底引き網漁の際の「海ごみ」の現状と、分別・回収の体験を行い25人が参加しました。

2023年に続いて2回目となります。今回は強風のため沖に出ることはできませんでしたが、港に帰ってきた船上と波止場で分別作業と、海ごみの状況について大室さんからお話を伺いました。今回は、環境省中国四国環境事務所や倉敷市環境政策課・玉島テレビ放送からも参加があり、身近な場所で瀬戸内海のごみの実態を学ぶ良い機会となりました。



船上で海ごみや貝殻などの中からエビなどを分別する参加者



活動した組合員と回収した100kg近い川ごみ

「川ごみ回収調査」

倉敷医療生協・玉島浅口ブロックの組合員と、水島地域環境再生財団は、12月14日に倉敷市玉島の道口川で「川ごみ回収調査」を行い12人が参加しました。1時間で94.6kgの川ごみを回収しました。ペットボトルやプラスチックごみが30.7kg、ビン・陶器などが42.8kgのほか、車のバッテリー等の不法投棄もありました。1月11日にも同じ場所で定点回収調査を予定しています。

こくみん共済coop 岡山推進本部（岡山県労済生協）

2024年度上期「防災・減災の取り組み」報告

こくみん共済coop 岡山推進本部では、2023年度に引き続き「防災・減災の取り組み」の活動を展開してきました。

防災士であるこくみん共済coop 岡山推進本部職員による「防災セミナー」や、ダンボールでトイレ作りや煙体験ハウスなど、「体験型ワークショップ」を実施しました。



開催日	イベント名	会場
7月 9日 (火)	ぼうさい授業	玉小学校
7月12日 (金)	ぼうさい学習会	一元公民館
7月24日 (水)	ぼうさいカフェ	浮田小学校ふれあいプラザ
7月31日 (水)	子ども防災フェスタ	小田公民館
8月 2日 (金)	ぼうさいカフェ	おかやまコープ北畝店
8月17日 (土)	ぼうさい体験デー	津山医療生協ふれあい愛ホール
8月19日 (月)	ぼうさいカフェ	おかやまコープ大野店
9月 7日 (土)	自分らしく生きるマルシェ	コワーキングスペースひとやね
9月 8日 (日)	旭電学区地震災害避難訓練	旭電小学校
9月18日 (水)	ぼうさい授業	岡山南支援学校

開催日	イベント名	会場
9月26日 (木)	キッズ防災スクール	岡山大学
9月28日 (土)	コープフェスタ2024	コンベックス岡山
9月29日 (日)	ぼうさいカフェ	大谷荘
10月17日 (木)	防災交流会	備前緑陽高校
10月20日 (日)	外国人のための防災講座	玉島東公民館
10月28日 (月)	南浦ミ二健康展	南浦小学校
11月10日 (日)	くらしき防災フェア	まびふれあい公園
11月17日 (日)	八浜地区避難訓練	八浜小学校
11月25日 (月)	ぼうさい学習会	玉島池会館

岡山医療生協

生活保護受給者へのエアコン設置・修理費用支援を求める要望書を提出

岡山医療生協は、地球温暖化による健康被害の増加を懸念し、生活保護受給者を対象にしたエアコン設置費用の支援を岡山市に求める要望書を11月に提出しました。

例年続く猛暑により、熱中症や脱水症で入院する患者様が増加しています。当法人が調査したところ、自宅にエアコンが設置されていない、または故障している人が7人おり、そのうち6人は生活保護受給者であることが判明しました。中には、エアコンがない自宅の部屋で退院後に衰弱した人もいました。生活保護受給者でエアコンが壊れていて使えない場合は「住宅維持費」として修理費を請求できますが、2018年以前に既に生活保護を受けていた人は除外され、また物価高騰により限りある支給費から修理費の捻出ができないことも要因の一つです。すでに一部の市町村では、生活保護受給者に対するエアコン設置費用の助成制度が存在していますが、当法人としては、GGHH (Global Green and Healthy Hospitals)^{※2}を掲げる病院として、さらに独自の支援制度を設けてほしいと強く要望しました。

(※2) GGHH (Global Green and Healthy Hospitals)

人や地域だけでなく環境にも優しい医療機関。86以上の国1900以上の医療機関やシンクタンクが加盟しており、岡山協立病院は2024年に、日本の病院で初めてGGHHに加盟しました。



三井造船生協

三井生協家庭会チャリティーバザーと「グルメフェス×玉の輪祭り」を開催

11月23日(土)第44回「三井生協家庭会チャリティーバザー」が、三井生協本部店3階特設会場にて開催されました。組合員の皆様の善意にて日用品や食器、衣料品などたくさんの品物を提供いただき、当日開催並びに翌24日の店頭ミニバザーとともに盛況を呈しました。収益金及び従業員の寄付金を合わせた201,755円は12月18日に全額玉野市へ寄付し、社会福祉事業に役立てていただく予定です。

また、11月24日(日)には本部店「グルメフェス」が玉商店街での玉野商工高校主催の「玉の輪祭り」とコラボにて開催され、こちらも出店いただいた地元有名店並びに店内外で開催された各種イベントも、終日たくさんのお客様にお越しいただき、大いに盛り上がりしました。

今回は1月26日(日)和田店で開催予定です。



岡山県学校生協

エンジョイライフセミナーを開催

岡山県学校生協では、組合員の皆さまに充実した退職後の暮らしに備えていただくため、教職員共済との共催で、11月30日(土)におかやま西川原プラザにて、エンジョイライフセミナーを開催しました。

60歳以降の暮らしに備えるため、社会保険制度及び日々の健康に関する情報提供をおこないました。退職前後の組合員とそのご家族さまを中心に、17名の方にご参加いただきました。



グリーンコープ生協おかやま

fromネグロスセミナー～知ろう!食べよう!エコシュリンプ～を開催

11月15日に、グリーンコープで取り扱うエコシュリンプの学習会を開催しました。エコシュリンプは自然環境を活かした粗放養殖により生産されています。約30年前にインドネシア・ジャワ島で伝統的な養殖を行う生産者と出会い、交流を続けています。エビは海岸線沿いの汽水域で養殖しますが、温暖化により海岸線が50m以上浸食された地域もあるそうです。海岸線の保護と二酸化炭素の削減を目指し、組合員が協力してマングローブの植樹も行っています。



フードドライブを行いました



12月2日～6日に、今年度2回目のフードドライブを実施しました。12月11日に提供品の仕分け作業と、お届け先の一つである認定NPO法人オリーブの家さんのお話を開催しました。お話しでは、お届けした提供品がどのようにお役立っているのか伺うことができ、今後の活動の励みになりました。組合員から届いた提供品は、岡山市家計改善支援事業や地域の福祉団体を通じて必要な方にお届けしました。



岡山大学生協

岡山大生協 設立30周年生協キャンペーン2024を開催

岡山大学生協は1994年に設立総会を開催し、2024年に30周年を迎えました。

毎年11月頃に1週間ほど開催している「大還元祭 生協キャンペーン」を、2024年は4週間にわたって開催し、学生の「ガラポン抽選会」の企画や総額30万円あたるスクラッチカードの企画などを行いました。



就実生協

学生委員による店内装飾とPOP作成で組合員へアピール

学生委員会の店舗部局チームでは店舗の利用促進や雰囲気を盛り上げるために日々様々な取り組みを行っています。

今回はクリスマスシーズンに向けた装飾イベントです。小さなツリーの飾り付けや、店内にリースやガーランドの装飾を行いました。クリスマスの雰囲気演出に対して、組合員からも綺麗、かわいいなどの声をいただきました。その他、生協手作りのお弁当をアピールするPOPも毎週用意しています。

今後も組合員に楽しんでもらえるお店企画を計画しています。



能登での災害対応、つながりの力を学びました

11月25日～26日、岡山県生協連の県外訪問研修が行われ、7会員生協と事務局計12名が参加、石川県生協連のご協力のもと、コープいしかわと珠洲市社協、輪島市社協を訪問し被災の実情と諸団体とのつながりの重要性を学びました。



【のとセンターにて】
壁には各地からの応援メッセージがびっしり

コープいしかわ のとセンター（七尾市）では、石川県生協連大谷会長（コープいしかわ理事長）、吉本専務、コープいしかわ能登地区協議会の坂本理事と畠中理事、組合員活動部中橋マネージャーにお話しいただきました。災害の実情や組合員の存在と全国の生協からの支援のつながりを感じたことで離職者も出なかったこと、組合員活動で被災直前に行った災害への備えの学習が役立ったこと、訪問の前日に行われた「能登復興応援ピースコンサート」は、多くの人のおかげに感謝し、前向きになれるいい企画になったこと、などの意見交流ができました。

2日目は、珠洲市、輪島市を車で移動、まだ崩落、凸凹、迂回が多くみられました。地震で崩れたままの家や豪雨災害での流木の山なども見ながら、珠洲市社協を訪問。医療、介護現場での離職が多かったものの各地の支援でだいぶ戻ってきていることなどを伺いました。輪島市社協では、豪雨災害も重なり失意の中でもボランティアや企業など多くの支援が支えになっていることなどを伺いました。



道路は凸凹と迂回の連続

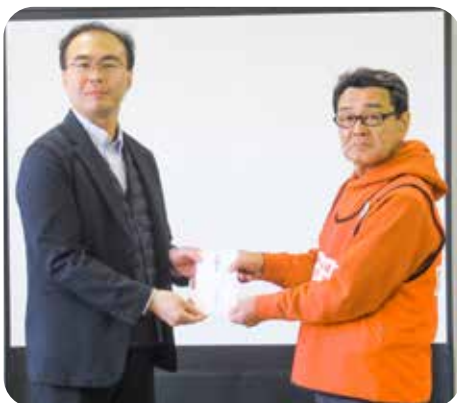


積み上げられた流木



輪島朝市通りでは崩れたままの家屋も

◆ 2市社会福祉協議会へ支援金を贈呈 ◆



加藤理事より珠洲市社協へ支援金贈呈



市川理事より輪島市社協へ支援金贈呈

まだこれからも続く復興の動きを応援するため、今回は珠洲市社協と輪島市社協へ支援金を贈呈させていただきました。今回、現地に赴いてこそ得られた学びを各生協で生かしていくこと、長くなるであろう復興への道のりをさまざまな形で支援していく必要があることなどを参加者全員が持ち帰りました。